【史料カード】

SEQ番号	0001230
所蔵元別 分類番号	琉球大学附属図書館所蔵 宮良殿内文庫
史料番号	119
標　題	仕置（向象賢著）
年　代	
西　暦	
形　態 （数　量）	1冊
作成者	
宛　名	
リール番号	
コマ番号	
注　記 （内　容）	昭和10年12月10日、沖縄郷土協会発行
※特記事項	

Digital image © 2008 University of the Ryukyus Library

仕置

向象賢 著

沖繩郷土協會發行

Digital image © 2008 University of the Ryukyus Library

正誤

頁	行	誤	正
一ノ一〇	主	儀ノ下ニ「其日」	衆ノ二字ヲ加フ
一ノ二	儀	儀ノ下ニ「言上」	ノ二字ヲ加フ
〃	各	各ノ下ニ「申達」ノ二字ヲ加フ	冬
二ノ八	未	未ノ下ニ「不得」ノ二字ヲ加フ	末
二ノ八	し	し「候」ノ一字ヲ加フ	て
三ノ一	大	大和ノ二字ヲ削ル	
三ノ四	和	和ノ下ニ「不得」ノ二字ヲ加フ	
三ノ六	由	由ノ下ニ「申達」ノ二字ヲ加フ	
三ノ三	共	共ノ下ニ「候」ノ一字ヲ加フ	
五ノ五	苦	苦ノ下ニ「不得」ノ二字ヲ加フ	
五ノ七	病	「病」ノ宇ヲ削ル	
六ノ八	に	に	
七ノ二	燒	燒臺	燈臺
七ノ二	壹	壹燈	燈
七ノ一	燒	燒	々
一ノ四	一	一差ノ一字ヲ削ル	
一ノ七	十	十ノ下ニ「六」ノ一字ヲ加フ	
一ノ五	明	明	月
一ノ八	は	は	と
一ノ八	右	右知行ノ下ニ「高」ノ一字ヲ加フ	
二ノ三	知	知行ハ國司	
二ノ四	行	行ハ可ひる」ノ四字ヲ削ル	
二ノ七	可	可ひる」	各
二ノ七	國	國	
二ノ八	ハ	ハ	
二ノ九	ひる	ひる	
二ノ九	名	名ノ下「仕」ノ一字ヲ加フ	亥
三ノ五	於	於	
三ノ二	寅	寅	も
三ノ二	ま	ま	公
三ノ二	行	行	

羽地按司仕置

一、午十一月十九日具志川按司跡役大和へ御意を得られ候處御返事に拙者へ仰付らる由に御座候間早々罷出相勤べく旨書院之親方衆使にて申付られ候に付身上に似合ざる役儀仰付られ冥加淺からず有難く仕合存候然なから勤め得候儀取覺へ申さず候間追而返事申入べき由にて其日は領掌申さず候左候而嘶迄に右役儀當地にては重き役儀にて大和迄窺はれ相濟申付らる儀にて候間内證より申付られ候は之あるべからざる儀と存られ候同者表より慇懃に有之然可と存候通申候處其段尤に思召され次日三司官伊野波親方使にて申付られ候條領掌致し罷出候事

一、同廿二日吉日にて候間初而城へ罷出役儀申付られ候御禮申入候事

附　此中之模には酒一双牛肉一盆餅一盆國司並妃或はあこもしられとて手掛之主或は女官大勢頭部其外段々進物御座候而事六ケ敷候此節私も右之通模之樣進物可仕候得共今程時分柄相當仕らず候其上御國元へ聞得候ても如何と奉存候間國司へ酒一對餅二籠飯妃へ酒一對餅一籠飯進上餘は召留られ向後按司衆地頭所頂戴又は三司官役之時も右之模御座候而可然申達相濟候事

一、我等儀具志川按司跡役仰付られ候付諸人祝儀爲差出さるべく候之依前々之儀承候得は錫持參にて諸人より拜可仕由候同臣下として拜受候儀辞退に存候尤も對面致べく候得共今程公私繁多透得ず候間不能其儀候禮帳出置へく候間帳に付けさせるべく候又は諸人位昇進並年頭之禮にも右模可然由申渡候事

一、三司官任職明日申付らる儀相濟候得は此中は國司より女官大勢頭部遣はさる模にて候得共家老之儀は慇懃に御座候而可然由申達此節より取次衆使にて相濟候

Digital image © 2008 University of the Ryukyus Library

事

一、三司官任職領掌致し登城之儀言上之有候得共此の節より前日に可然由申達相濟候事

一、具志頭親方三司官役申付られ候刻右通相濟候事

一、此中は女官大勢頭部取次色々御用等言上仕候得共女之儀にて達兼候儀も御座候半書院之親方衆當衆取次言上可仕旨申達相濟候事

一、諸士城内草履蹈候儀免許之事

一、座敷衆年寄之儀にて候間各中足袋免許之事

一、當若里之子は給事役にて候間各中之朔日十五日又は正月中節供々足袋免許之事

一、諸間切遠近に依らず火事有之刻は前々より飛脚を以て申達候得共百姓隊取儀候間手札或は御物等燒失せず候はゞ飛脚無之候而も苦しからず候事

一、國司正月七月寺々先祖參之名代附社參之名代兄弟衆可然候尤も冬至正月朔日十五日又は天界寺崇元寺祭祀之時は前々の如く三司官可然由申達相濟候事

一、國司歳日之祝儀之事唐大和にても右之祝儀御座なき由候間初歳日未之歳日之祝儀振舞は召留られ可然候尤内證方にて女衆振舞は有之候ても可然由申達相濟候事

一、前々より時之大屋子こし文字之一字も存ぜざる者を百姓中より立置日の吉凶

を撰せ萬事用候得共此前より唐大和日本之暦用申べき由申達相濟候事

一、前々より紫冠黄冠頂戴之衆前之八卷にて於城之庭出仕之段位之分然と相知れず候間向後當分被下候八卷にて出仕可然由申達相濟候事

一、此中は按司衆出仕下座にて仕候得共直に座着一禮可然由申達相濟候事

一、前々より節供〳〵之祝物手掛衆迄を進申候得共此節より召留國司並妃へ進上可然由申達相濟候事

一、前々より唐大和へ使者當候方は冬至元日十五日城へ召出され候得共此節より召出せられす候共可然由申達相濟候事

一、此節より唐大和へ使者當候衆歳日之内祝儀として女躍仕候儀附諸人初歳日之祝儀仕候儀禁止之事

一、國司より方々に法事之刻提重又は祭酒座敷酒被下候儀召留られ可然候近親類中は祭酒遣はされ候而も可然と申達相濟候事

一、此中は國司兄弟衆五節供計出仕にて候得共此節より毎月朔日十五日出仕差出され可然由相濟候事

一、大里按司より下舍弟衆は親方衆供仕らせ候儀は入間敷由申達相濟候事

一、國司兄弟衆之家老此中は役人衆承候得共透還而國司方大形に罷成候間座敷衆より一人宛家老承可然由申達相濟候事

一、國司冬至子之方元三吉方之之朝拜若當病之刻は名代三司官たるべく候勿論上

Digital image © 2008 University of the Ryukyus Library

疊にて候國司へ諸人拜之刻は右之席は替し刻爲疊にて可然由申達相濟候事

一、衆中之子供小赤頭爲仕入体花當迄は銀髪差免許之事附親見世若筆者久米村若秀才(シュウツアイ)同斷之事

一、當位並勢頭之衆前々は當衆は勢頭位よりは下座にて候得共此節より歳兒次第座可仕候事

一、平等之大屋子は勢頭歳兒次第前々より座上仕候得共同筆者は此節より引之筑登之迄同座召成候事

一、正月朔日十五日詰衆振舞之儀此節より召留られ可然申達相濟候事

一、正五九月辨之嶽識名末吉觀音堂へ國司參詣之刻住寺妨主内侍祝部に祝物被下候儀此節より召留られ可然由申達相濟候事

一、若里之子座之儀當若里之子勢頭筑登之と申候而若里之子は筑登之座敷より位上にて候處下座仕候儀然るべからず候間此節より筑登之たより上座に召成候事

一、内證方より女按司部年頭之禮被差出候刻振舞之段男膳可然候事

附　供之ゐむしられたより下は酒計被下可然由申達相濟候事

一、美里按司召付之人數親方部二人座敷衆二人黄八卷二人筑登之座敷二人之事

一、諸間切より唐竹持夫此中は山奉行より手間分相拂はれ候得共此節より追立夫に引合可然由申定候事

一、大和への使者此中は拾貳匁賦にて候得共使者之方迷惑に及之由候付此節より八匁相重貳拾目に召成候向後合力物借物なしに仰付られ可然申達相濟候事

一、毎年四月朔日より夏衣裳十月朔日より冬衣裳着申候事

一、大和より御使者御座候砌は當若里之子花當右御宿へ相詰候儀舊例にて御座候得共此節より仮屋守若手之衆相付相勤可然由相談致相濟候事

覺

緣組祝言に付色々定

一、初而約束之刻可爲酒一對之事

一、祝言之刻は花籠飯一對酒一對之事

一、媒之振舞方大和膳肴茶之子素麵男客同斷之事

附　祝物は輕く相應に可有之事

旅行衆之祝儀定

一、三平等願之刻振舞可爲無用事

一、狀請取並乘初之刻右同斷之事

附　女客來候はゞ輕き振舞不苦事

一、板敷拂之刻ハ親子兄弟餘儀なき親類は參會輕き振舞不苦事

一、旅衆歳日之祝無用之事

右之祝儀此中過奢に成來費に成儀耳御座候而諸人病疲に罷成奉公方疎畧致儀に付此節より省畧申渡候件之條に可被相守者也

Digital image © 2008 University of the Ryukyus Library

寛文七年未三月十六日

羽地按司
摩文仁親方
伊野波親方
具志頭親方

葬禮之定

按司部親方部

一、壹階龕
一、位牌は世繼之子持べく若子供無之候はゞ名代可然事
一、天蓋一本
一、四流旗四ツ
一、燒爐一對
一、鍵二本　但女ハ可爲無用事
一、差笠一本
一、立笠一本
一、引導者檀那坊主伴四五人之間可然事
此外引馬並墓屋可爲無用事

祭文之飾

一、香爐一つ
一、茶湯一對　但茶壹計女ハ下添可有之事
一、折一對に色々菓子盛合
一、蠟燭燒爐之間一對
一、草花一對
一、祭文讀坊主二三人之間可然事

祭禮定

一、法事之刻者檀那坊主一人伴四五人之間勝手次第之事
一、振舞方御定之樣可有之事
一、一周忌よりは衣裳何色にても可然事
一、七月施餓鬼之刻衣裳同斷之事
一、年回に付茶屋杯立候儀無用之事
一、座敷衆より下は段々其人躰相應に葬禮祭禮可仕事
右葬禮祭禮之儀此中孝行とて餘り華美過僭禮耳に御座候其上子孫迄疲罷成儀候得は自奉公方疎意致し笑止之至候此旨堅く可被相守候若違背之族有之者可及沙汰候可有其心得者也

寛文七年未三月十六日

羽地按司

Digital image © 2008 University of the Ryukyus Library

覺

一、田舍人縁組祝言之刻大粧之入日にて疲罷成由候間如何にも輕く其人々に相應可仕事

一、田舍葬祭禮之刻牛殺大酒仕候儀前々より難爲禁止此頃猥有之由候間彌稠敷可被申付候首里侍衆葬祭禮見合相應に可仕事

田舍人傾城に出又は傾城慰堅く停止たる可事

右祝儀愁之作法此中過奢成來不自由之者共身を賣候ても仕る由然るべからず候若相背く者之あるに於ては其人は申に及ばず所のさばくり與中迄稠敷沙汰に及ぶべく候間(あつかひ)嘔中堅固申付べき者也

寛文七年未三月十六日

摩文仁親方
伊野波親方
具志頭親方

惣地頭衆

具志頭親方
伊野波親方
摩文仁親方
羽地按司

覺

一、樫木松木御用木にて候間山奉行所無手形私に伐取商賣致し候儀堅く停止之事

一、諸在郷に於て松樫木にて新敷作事仕候儀向後堅く禁止たる可き事

一、諸間切のろくもい之儀他間切のろくもい申請祭禮仕候儀此節より禁止申付候若のろくもい居申さゞる村は間切中ののろくもい申請祭禮仕候共新敷立候共勝手次第之事

一、諸間切根人同斷之事

一、諸間切夫里主持之百姓男女百人より上は向後禁止候但餘分は惣地頭兩人之(アツカヒ)嘔にて候事右此節相定候間堅固相守らる可く候若も違犯者之あるに於ては稠敷沙汰に及ぶ可者也

寛文七年未四月廿三日

具志頭親方
伊野波親方
摩文仁親方
羽地按司

諸惣地頭

覺

一、知行夫高十石に付夫一人宛夫遣之儀は一ク月に一人にて四度夫分は三貫文之

Digital image © 2008 University of the Ryukyus Library

事

右之定未正月より諸間切さばくり中へ申渡候向後右の如く遣はさるべく候以上

寛文七年未三月廿四日

一、學文之事
一、筆法之事
一、筆道之事
一、容職方之事
一、唐樂之事
一、茶道之事

右御四人

一、算勘之事
一、謠之事
一、立花之事
一、醫道之事
一、庖丁之事
一、馬乘方之事

右之藝若き衆中達常に相嗜國司之用に立可き儀專要に候右之內一藝にても嗜ざる方は縱令餘儀無雖爲筋目被召遣間敷候間爲心得前以觸渡者也

未四月廿三日

羽地按司
摩文仁親方
伊野波親方
具志頭親方

覺

一、妃並聞得大君國司妹達迄はあむしられた一人あかまた一人宛草履取一人合三人之事
一、按司部親方部奥方子供はあかまた一人草履取一人之事
一、右之外は草履取一人之事
一、右供之人數へ膳之餘給候儀禁止之事

不淨定

一、祖父母父母夫婦兄姉は三十日之事
一、繼父母伯父母弟妹子孫は二十日之事
但 弟より下は髮指不拔事
一、甥姪十日之遠慮之事
一、從兄弟より下は五日遠慮之事

右此中父母より下親類中差合之刻遠近に依らず一ケ月之忌にて候付如此申渡候事

未四月廿三日

羽地按司
摩文仁親方
伊野波親方
具志頭親方

一、年々兩度正月七月領主へ野菜薪木相納候覺

Digital image © 2008 University of the Ryukyus Library

一、野菜七十斤但夫一人にて一斤に付代分百文づゝ
一、薪木二束右同一束に付代分五百文づゝ
一、色々盛物之類やさいの内として請取候はゞ
右定之野菜七十斤薪木二束引合請取らる可候事
附　兩度拂地夫として未遣候方も有之由に候間向後堅く禁止之事
右此中百姓より請取候物數一統に依無之百姓疲罷成由候付吟味致し申渡候事
寛文七年未七月十三日

羽地按司
三司官御三人

覺

一、奉行筆者三番之勢頭筑登之交替之刻家來赤頭細工人より一禮之外瓶酒無用之事
一、家來赤頭細工人數に入候刻右同斷之事
一、節々に面々より志にて野菜肴之類遣候はゞ受用苦しからず候事
右此中は色々進物猥に有之由候間此節相定め申渡候事
未七月廿四日

具志頭親方
伊野波親方

木奉行貝摺奉行鍛冶奉行金奉行瓦奉行螺赤頭奉行石奉行三番之勢頭

摩文仁親方
羽地按司

覺

一、按司衆親方衆迄は下司可被書之由今度大和より仰下され候間向後狀並文書必下司に可被書候以上
未三月四日

羽地按司
摩文仁親方
伊野波親方
具志頭親方

一、三司官與力計にては公私調ひ難く候間儀者として黄八卷一人宛筑登之座敷一人宛下され候て可然由申達相濟候事

覺

一、此中公儀諸方百姓現夫遣中に付疲に罷成由候且復野菜肴薪木等も無引合出候故同前に疲之由候間未之春頃より日用遣と相定候就夫惣高九萬八百八拾三石之内宮古八重山島之高相除六萬九千五百八十一石但石に付役米一升五合宛相懸右日用賃並野菜肴薪木代相拂申候事

Digital image © 2008 University of the Ryukyus Library

一、諸地頭領分之百姓男女苗植稻苧摺拵並畠作之砌も同前に遣申候處依地頭所百姓多少有之百姓疲に罷成由候付按司惣地頭は領分之百姓一年に一度宛脇地頭は一年に兩度宛遣はさる可き由未之春之頃相定候事

一、未之春頃より諸代官取納方相濟候得は其首尾承屆追付跡見申付差通候事

附　百姓作方之樣躰爲見屆候事

一、百姓疲罷成由地頭衆より申出られ候方は檢者申付田畠高並代相下ケ候間切餘多御座候就夫御檢地之高引入候間去年御國元へ仕明地之儀申上候處御赦免御座候事

一、此中諸役所へ相納候諸物有之百姓持參之刻請取候儀延引且又升目斤量相違に付百姓疲に罷成由候間左樣無く諸方へ當秋之頃申渡候事附跡目檢者へ其首尾爲承候事

一、此中は國司藏入給人高押入同前に百姓一人にて一ケ月に付夫遣五度宛遣候付疲之由候間夫遣未之四月之比給人高十石に付夫一人宛入切一ケ月に付四度遣候樣相定め候事

附　給人夫一人にて野菜七十斤薪木二束づゝ正月七月兩度請取らる可旨申達定候事

一、此中諸間切百姓遣候鍬へらはいし賃として百姓一人に付米一升五合宛相懸半分は公儀半分は鍛治細工へ相納候處百姓疲申に付未之春頃より右出米差免諸間切へ鍛治細工一人宛立置夫引合相定候事

一、此中諸地頭領內百姓へすかまと申鳩目錢三貫五貫十貫相渡置一ケ月一度つゝ遣申候處百姓疲に付當春より禁止申付候事

一、此中諸地頭(アッカヒ)曖中之百姓へ庭鳥一相渡置年に鳥二玉子三十甲つゝ請取申候に付百姓疲の由候間當秋禁止申付候事

一、前々は按司惣地頭は領內より粹者五六十人脇地頭は十人二十人公儀無拘置候付百姓疲罷成候間已之春頃按司衆は粹者十三人親方部は十二人取次役物奉行役は九人其外は應位五人三人宛相定候事

一、此中は壺作候白土一石に付鳩目錢七貫五百文眞白土一石に付三十貫文之引合にて候處右之引合にては百姓疲に罷成由候間未之春比檢者差遣例相究白土一石に付二十貫文眞白土一石に付七十六貫文引合相定候事

一、前々は歳暮之爲禮三司官中物奉行三人同筆者六人代官五人へ金武名護羽地今歸仁國頭より猪二枝はらかみ一手籠持參候處右調に付百姓疲罷成由候間禁止申渡置候事

一、久米嶋慶良間島粟國島伊江島伊平屋島よりは右禮として夜光貝干魚持參候處同前に禁止申付候事

一、東四間切島島尻八間切浦添中城北谷越來讀谷山勝連具志川七ケ間切よりは三月三日爲禮右人數へ貝之類海草之類持參候處右同斷之事

一、壺瓦燒大薪木此中は六尺廻一束に付代分一貫文引合にて候處百姓疲に罷成由

Digital image © 2008 University of the Ryukyus Library

候間木の春之頃右薪木一束に付代分二貫文引合相濟候事

一、同大薪木此中は慶良間島百姓方々も同前申付候に付水主仕疲の由候間宜叔に て地下中計に申付候事

一、慶良間島百姓加子仕方々罷渡候留守飯米前々は一日に付雜石五合宛にて候處 疲之由候間當秋より五合つゝ相重一升に相定候事

右條々百姓疲れざる樣相談を以て近年用捨仕候間漸々能罷成候樣相見得候少々に ても百姓迷惑致す儀は申付ず候處前々に相替らざる由に候此頃跡目檢者に申出候 は滿作之年も不作と申候樣に連々曲に申候哉無心許候ヤツカヒ中之百姓銘々へ細々被相 尋免角之首尾可被申出候以上

西十二月卅日

國頭　名護　本部　知念　大里　具志頭　親方
仁　中城　兼城　佐敷　讀谷山　金武　具志頭　豐見城　摩文　伊野波　親方
嶺　西原　玉城　東風平　具志川　眞和志　南風原　今歸仁　高　摩文仁　親方
越來　羽地　美里　勝連　浦添　喜屋武　眞壁　羽地　按司

覺

一、今度大和に於て仕明御赦免可被下由訴訟申上候處異議無く相達御免被下候間 惣地頭並脇地頭領分中仕明に可成所は可被明候左候而明次第此方へ可被点合候左 候はゝ檢者遣爲見屆子孫永々之高に召成可被下候事

一、各ヤツカヒ中百姓にても仕明次第地頭へ申出地頭より公儀へ申出らる可候左候はゝ 百姓へ永々可被下候事

一、此中地頭衆へヤツカヒ中之百姓男女居分年々兩度夫遣被下候處此外すかま被遣方も 稀に有之由風聞候左樣に而は百姓二重に遣はれ疲に罷成可く候間向後禁止申付候 惣地頭衆より右之段百姓中へも堅く申付らるべく候事

寛文九年酉三月十六日

羽地按司
摩文仁親方
伊野波親方
具志頭親方

一、里主所替合之刻田方は前々より種子蒔限にて候得共此節より正月限當地頭に 相渡可く候尤種子蒔田拵人目等は相返可き事

一、地頭所畠作に萩植付置候はゝ燒取次第當地頭へ相渡上納半分は前地頭可出

Digital image © 2008 University of the Ryukyus Library

一、地頭替合之刻御免夫並供夫明算用可仕事
右此節より相定候間向後無相違可相守者也
戌十一月廿二日

池城親方
具川頭親方
伊野波親方
羽地按司

諸地頭衆

覺

一、普代筋目之衆は諸間切衆中或は新參之衆此中同位は歳次第座仕候得共此節より相改普代筋目の衆は座上たる可く候共外細工上り町上り田舍衆中又内上りは歳次第座可仕候

附　諸人筋目之儀公儀へ然と相知ず候間各系圖仕差出さる可く候以上

戌十二月十八日

羽地按司
伊野波親方
具志川親方
池城親方

玄館迄之供定

一、思弟部三司官與力一人小姓一人草履取一人
　但　草履取は君ほこりの外へ可歸事
一、按司親方部は小姓一人草履取一人
　但　草履取は君ほこりの外へ可歸事
一、物奉行取次役吟味役並申口座衆は草履取一人の事
一、座敷衆より下位衆小赤頭迄は草履取一人
　但　草履取は君ほこりの外へ可歸事
右此外之供は君ほこりの外迄可參事

亥三月廿五日

廓下迄之供定

一、思弟部三司官は與力一人小姓一人草履取一人
　但　草履取は寄内へ可歸事
一、按司部親方部は小姓一人草履取一人
　但　草履取は寄内へ可歸事
一、物奉行取次役吟味役並申口座之衆は草履取一人の事
一、座敷衆より下位衆小赤頭迄は草履取一人
　但　草履取は寄内へ可歸事
此外之供は寄内迄可參事

Digital image © 2008 University of the Ryukyus Library

寛文十一年亥二月廿五日
覺

一、眞和志之平等大與頭　越來按司
一、同平等小與頭　豊見城親方
一、南風平等大與頭　安慶田親雲上
一、同平等小與頭　花城親雲上
一、西之平等大與頭　宮里親雲上
一、同平等小與頭　與座親雲上
一、田場親方　眞榮里親雲上
一、大城親方　伊江親方
一、武富親雲上　安仁屋親方
一、平安名親雲上　宇座親雲上
一、眞壁親雲上　知念親雲上
一、屋嘉部親雲上　與那城親雲上
一、小祿里之子親雲上　謝敷親雲上
一、天願親雲上

右當地前々より大與頭ヶ申役無御座候に付諸事口事邊出合候刻少事之儀迄も公儀へ申出事六ケ敷候公儀方は諸事繁多に有之候間而少事之儀迄下知致候得者公用之爲にも罷成らず候に付此節より新規に大與頭申渡候條所々に口事邊出來候はゞ與頭にて被承届可被相濟候左候而首尼之儀者可被爲披露候勿論依事與頭にて難被濟儀者は可申出候　以上

亥三月十一日　羽地按司

Digital image © 2008 University of the Ryukyus Library

覺

一、此中諸間切より木分買候而立置候付百姓疲罷成由候間此節より免許候間向後被立間敷者也

亥六月卅日

伊野波親方
具志頭親方
池城親方

惣地頭衆

覺

一、從前々借米借錢之利毎年利之本に成り不自由之方は彌及迷惑之由候間此節より一通利に相定候事

一、諸間切百姓公役仕候儀いやかりにて首里那覇泊之衆並出家衆へ内證を以内之札取候故百姓少く公役仕者疲に罷成由候間地頭にて相改右之者其所へ渡付一人も不紛樣堅く可被申付事

池城親方
具志頭親方
伊野波親方
羽地按司

但、地頭より耕作用召置候内之者は制外之事

右此節相定諸地頭衆へ申渡候間(アッカセ)噯中へも堅く可被觸渡候若相背者有之に於ては其沙汰可申付者也

亥八月五日

池城親方
具志頭親方
伊野波親方
羽地按司

鎖之側
平等之側
泊地頭

覺

一、知行高五拾石　圓覺寺
一、同三拾石宛　天王寺
天界寺
崇元寺

右知行如前此節減少致候儀圓覺寺住持乾叟長老代々訴訟有之右之寺知行加增被下候はゞ大和の如く小破之修理右物成之内より相調ふ可く候勿論大破之時分は公儀

Digital image © 2008 University of the Ryukyus Library

より仰付られ被下由候に付加増御座候處其後首尾無く少事之修理迄公儀より申付
候間如斯候爲納得候　以上

亥九月五日

池城親方
具志頭親方
伊野波親方
羽地按司

崇元寺　大傳長老
天王寺　靈堂長老
天界寺　久山長老
圓覺寺　空山長老

一、出仕之人數朔日十五日又は五節供八卷仕候刻は朝衣可然候常式之番日番中は何れの衣裳にても可然由申達相濟候事
一、狀渡之時此中は城之庭にて拜被仕候得共此節より庭之拜不仕直に罷歸られ可然由申達相濟候事
一、國可不被差出候へ共小赤頭花當より出仕有之可然由申達相濟候事
一、大美御殿施餓鬼之刻此中は白衣裳にて候得共朝衣着仕可然由申達相濟候事
一、宮古八重山島之役人位上り候得ば此中は宮古藏にて拜仕候共此節より城にて

出仕可然由申達相濟候事
一、毎年爲國司之諸人にて立願仕候寄進物前々藏方より出候得共此節より諸人にて相調可然由申達相濟候事
一、普請奉行石切奉行瓦奉行鍛冶奉行此中は袖結候得共大和衆より見違細工人同前に被思召由候間此節より袖結免許可然由申達相濟候事
一、正月七月諸人圓覺寺へ差出候刻此中は座敷衆迄は酒一對づゝ持參候得共規模惡敷候付亥七月より右人數之内筑登之座敷迄は地頭持並地知行持衆にて甕酒一壺持參可仕事

附　座敷衆にても嶋知行不持衆は錫免許之事

一、五節供には南風之御殿にて大和規式にて候思弟部按司部三司官親方部取次役物奉行花役迄は已時前被差出座に着出仕之事附座敷より下は綠にて出仕可仕事
一、大和への使者同位たりと雖使者之儀候間座上に致され可然由相談相濟候事
一、此中者宮古八重山島之取次物奉行之内一人同吟味役中付置候得共大和御用物色々御座候間奉行三人にて承可然通申渡候事
當春久高嶋知念へ祭禮事に付國司參らる筈にて候故愚意了簡之所及申入候
一、久高嶋は一里餘之嶋とは申ながら左右方々津も御座無く殊に二月之頃東風時分にて大事成る御身渡海成され候儀念遣ひ存候事
一、久高祭禮之起承候得者聖賢之能規式にても御座無く候大國之人承候ては女性

Digital image © 2008 University of the Ryukyus Library

巫女之參會還而嘲弄致すべしと察せられ候事
一、年越に兩度之祭禮にて候左候得者毎年渡參之賦にて候左候得者東四間切百姓之疲者申に及ばず嶋尻八間切浦添中城北谷越來美里勝連具志川讀谷山八間切百姓之疲不可勝計候且復御物も過分之失墜にて候君子者節用愛人と御座候得者爲主君民之疲題目可被思召候處舊例と計御座候ては仁政にて御座無く候知念久高之祭禮開闢之初より有來たる儀に非ず近頃之人作にて候ケ樣式成る儀別而了簡致さる儀目出度存候事
一、右祭禮舊規と被思召候はゝせめて一代に一度か又は使にても可然と存候左無くば知念久高之神城近へ請移され崇敬致され可然候大國より諸佛當國へ請移され尊敬致されると同斷之儀に御座候竊に惟に此國人生初者日本より渡たる儀疑御座無く候然は未世之今に天地山川五形五倫鳥獸草木之名に至迄皆通達せり然れ雖言葉之餘相違者遠國之上久敷通融絶たる故也五穀も人同時日本より渡たる物なれは右祭禮何方にて仕られ候ても同じ事と存候事
一、知念城內僅に三拾間足らずの狹き所に苦かげの棧橋七八間作置かれたるに四五日滯留致され候儀は用心不足と存候萬一火出來候はゝ女姓共は遁る可き方御座無く念遣存候
右熟思慮廻候處一として理に當りたる事御座無く候强而留度存候得共憚多く御座候間叡慮次第と存候仍て愚才を顧みず短慮如此候　以上

丑三月十日

羽地按司

口上覺

一、去午年十一月廿二日從先國司具志川按司跡役拙者へ仰付られ冥加淺からず存候然し乍ら身上に應ぜざる役儀にて候間斷存候由返事申入候處御國元許迄仰上られ相濟たる儀候返渡而仰付られ候條此上者辞退に及ばず御意に任し一節相勤可く候勤難き節者斷申入可く御請仕罷出候其より以來存命致し君よるひる夜白盡精勤仕致候事
一、此中國中百姓疲果候通見及候間笑止に存色々獨吟味に而仕置相改候に付二三年內に百姓緩々と罷成候我一人之私言に非ず候諸人見知る所に候前々とは名別之儀に候事
一、先年城火災に逢候處藏方衰微にて作業も調ひ難く數年大美御殿に於て平屋住居成され候付何とそ作事相調候樣にと出精を働申候處百姓に至迄肝煎候而三年之內に城普請成就移從相調候作事も前々より遙增出來申候事
一、國中百姓耕作油斷無く念入可き由申付候故近年不作致さず大和之上納方も無未を相調候不奪農時之考にて候拙者役儀承候而終に大和へ御詫言之訴訟申上ず候事
一、大和之御手內に成候而以後四五十年以來如何樣御座候而國中衰微致候哉藏方

Digital image © 2008 University of the Ryukyus Library

此方に於て過分借物出來年増多々罷成候付仕る可き樣御座無く先年御國元より諸人へ御配分遊ばされ候高之内兩三度に及び減少召され候不依奉公之勤不勤吟味にて候半哉諸人迷惑に及候依之量入爲出之考にて代官役並藏役人共へ下知仕候得者三年之内に右借物本利二百貫目程返辨相調藏方緩々と罷成候節用暖人之心得にて候左候而別々減少候給人高も依奉家被返下候間諸人も按量改り家内之儀も相調奉公方に進申候事

一、勿論宮古八重山嶋百姓至迄疲迷惑致さゞる樣色々條書を以て檢者遣申渡置候事

一、國中仕置相改可然儀は大方吟味致し國司へ申入直申候前々女姓巫女風俗にて多候故巫女之僞に惑はざる樣にと如斯御座候今少相改度儀御座候得共國中に同心之者御座無く悲歎之事に候我を知る者北方に一兩公御座候事

一、大和檢地以後水後水損荒地と成り不足高まで上納懸り百姓迷惑及候由申出候所は内檢地申付高減少仕候其分高引入候付先年御國許に於明地御免被下候樣訴訟申上達當分折角仕明仕候過半不足高より過分に相重可くと存候事

一、此中諸人婚禮葬禮祭禮共高下無く分高位之人を手本にして田舍之者に至迄我增に仕候故萬事過奢に成來疲罷成候左候而奉公當候得は不如意に有之由申斷藏方より過分之合力或者借物申請候例に罷成藏方衰微仕笑止に存候右之禮儀高下之分相定候故諸人落着致右通りに仕候に付疲に罷成ならず奉公方入精見事に御座候事

一、國頭按司邪慾人に而先年大和に於ても又此方にても私儀色々以僞言讒言仕候得共少も不搆躰にて奉公方入精勤仕致候故還而申はゞかり主之身上惡敷罷成候儀各見聞之前に候事

一、拙者役儀仰付られ候付加增知二百八十石又は先年中大和より歸帆之刻乘船破損之故合力として鳩目錢一万貫銀にして三貫目餘拜領仕候其後寅年二百石加增地被下都合六百石拜領仕候冥加不淺難有仕合存候ケ樣に節々手付を蒙り候故隨分忠勤抽可と願に存候得共老衰致し五体不叶罷成難勤故斷申候事

一、此中諸寺並唐舘屋破損申候得共此頃迄も修甫相調候間近年中には遮而公儀方造作可成修甫ま有間敷候左候得は藏元彌緩々と罷成可くと存候事

一、右之外にも奉公爲仕儀は諸人見聞之前にて候間不及記候乍然過分之奉祿其上合力錢拜領仕候儀諸人よりは珍敷樣可被存候私忠節可致相當と存候徒に奉祿を費にば替可逢恥辱と存候縱令他國人承候ても乍憚國司之難には成間敷と存候事

一、右七ケ年之間夜白盡精相勤候付國中之仕置大方相調百姓至迄富貴に罷成候儀憚乍ら非獨力哉と存候依之根氣疲果候且復老衰難致勤仕時節到來候故斷申候哀憐愍に被思召赦免可被下候左候而幸に二三年も存命致し隱居休息の体にて遠行仕度候左候はゞ本望之に過可らずと存候縱令十年二十年相勤候人も僅此中之七ケ年には勝可らず候頃日内證方より右斷之段申上候處先以召留られ候通返事被下候此趣を以て宜敷樣賴存候以上

Digital image © 2008 University of the Ryukyus Library

丑十一月廿四日

三司官　　羽地按司

覺

一、此中婚葬祭禮高下之分無く過奢に成來諸人疲に罷成候付近年高下之分相定候處頃日驕發出候樣に風聞候先祖之法事こて坊主馳走爲盛臺共出候由不似合儀に候先王法事之刻も盛台御座無く候又大和より之御使は御奉行城に於て申請之時も盛臺御座無く候近頃ケ樣成る儀見及聞及心得可く候處其考無く只過分之造作仕候而孝行と計り存越分之爲不孝之儀を知らざる事愚痴文盲之至候向後右諸禮儀越分之者有之に於ては其沙汰申付可き者也

右諸人頃日驕出候樣承及候間禁止申付度候納得に於ては諸人へ觸渡さる可く候

以上

丑十二月十二日

三司官　　羽地按司

條々

一、代官取納方並別用に付て問切通り候刻相定候若夫野菜薪木之外百姓中より馳走仕候共曾て請間敷候事

附　代官扶持米加增被下候間可心得事

一、頃日風聞候は代官或は邊戸今歸仁之使通候得は定之外さばくり中より百姓へ色々申付出合私之自分に見舞之樣に申成表にてはさばくり手柄之樣に見ぜ利發立仕出由候左候而百姓中より出合候殘分は行衞相知れざる仕合畢竟は百姓之疲不可勝計候前以て其通申斷置重而縱令持參候共請間敷候事

一、勿論公用之外代官親類緣者之賴候共材木竹類百姓へ申付御物積下候船に差荷仕候儀禁止之事

一、米雜石取納方其年々に未進無き樣に申可き儀專要たる可く候若依所代請共申出候は、地頭衆へ引合證文請取候て物奉行方へ差出さる可き事

一、米雜石並雜物相拂候は、早々拂請取を以て代官方へ引合申可く候處延引候故代官帳進立申仕合之由候向後地頭代首里大屋子大掟三人相談致し油斷之無き樣に念入可き由堅く申渡候間其心得可有之事

右毎年代官役も折取紙仕候得共念の爲め此條書相渡候嶋尻方中頭方國頭方へは條書之色々相替可く候又此外にも條入可もの之あるべく候半能々吟味させ申渡さる可く候　以上

丑十二月十二日

三司官　　羽地按司

Digital image © 2008 University of the Ryukyus Library

條々

一、近年首里内田舍に至る迄て傾城拘へ置き候儀年々禁止申付候得共下知に應ぜず還而頃日別而はやり申す由何共笑止之至りに候如何様に申出候而首尾仕候半哉悉皆之存寄承度候事

一、其村中に傾城隱居候はゝ誰かし之拘置にて候共早々搦捕点合可有之事

一、地頭所並知行被下候も奉公方之爲に而候徒に慰用爲被下様に心得傾城に摺込不如意に罷成候哉地頭所之田畠加増被下候様など訴訟ケ間敷儀さりとては奉公人に不似合事に而候事

一、頃日世間風聞候者畢竟之年衆一兩人傾城に溺入或は傾城馬口勞仕も有之或は傾城地頭所之下知さするも有之由言語道斷之至りに候其上若年之衆高下に不依我家迄誘引仕候故奉行方疎意致候由御國元迄相聞候物音國中之恥辱不可過之候ケ様成人共は早々地頭所知行召上隱居体に而如何様成遊迄も可仕候嶋知行年持世間之障に成音無に罷居候はゝ早々曲事申付度候事

一、右之仕置大方に候而御國元より之下知未斷之故國俗壞行候儀役人之曲事と被仰付候はゝ我々可及迷惑候間前以申出候若し恨に可被存人は羽地合手に可成候少も一身惜不申候國中之恥辱には替間敷候如何返答承度候右之條々可成合と被思召候はゝ國司へ被申入諸人召寄可被申渡候國法壞行候儀世々存命候而見聞致候も懶事にて候間如斯候各考可爲各別候以上

丑十二月十二日

三司官　羽地按司

（終）

（附記）羽地按司は「中山王府相郷傳職年譜」には「向象賢、羽地王子朝秀、原名吳氏實名重家、尙質王世代庚熙五年丙午十一月廿六日任職、尙貞王世代庚凞十四年乙卯十一月廿日卒勤職十年とある」この仕置を通讀した人は向象賢が如何に苦心して島津氏の琉球入後の琉球を整理せしかといふことを知るであらう。仕置の中に「今少相改度儀御座候得共國中に同心之者無御座悲歎之事に候知我者北方に一兩公御座候事」とこぼしてゐる所を見ると、向象賢も十分にその政見を實行することが出來なかつたといふことがわかる。彼れの政見は彼れよりも偉大なる具志頭親方蔡溫に布衍されて、そして實行された。

伏見の里にて　讀谷山王子朝恒

たれもかくさびしきものか草枕（クサマクラ）
ひとりふしみの夜半の月影

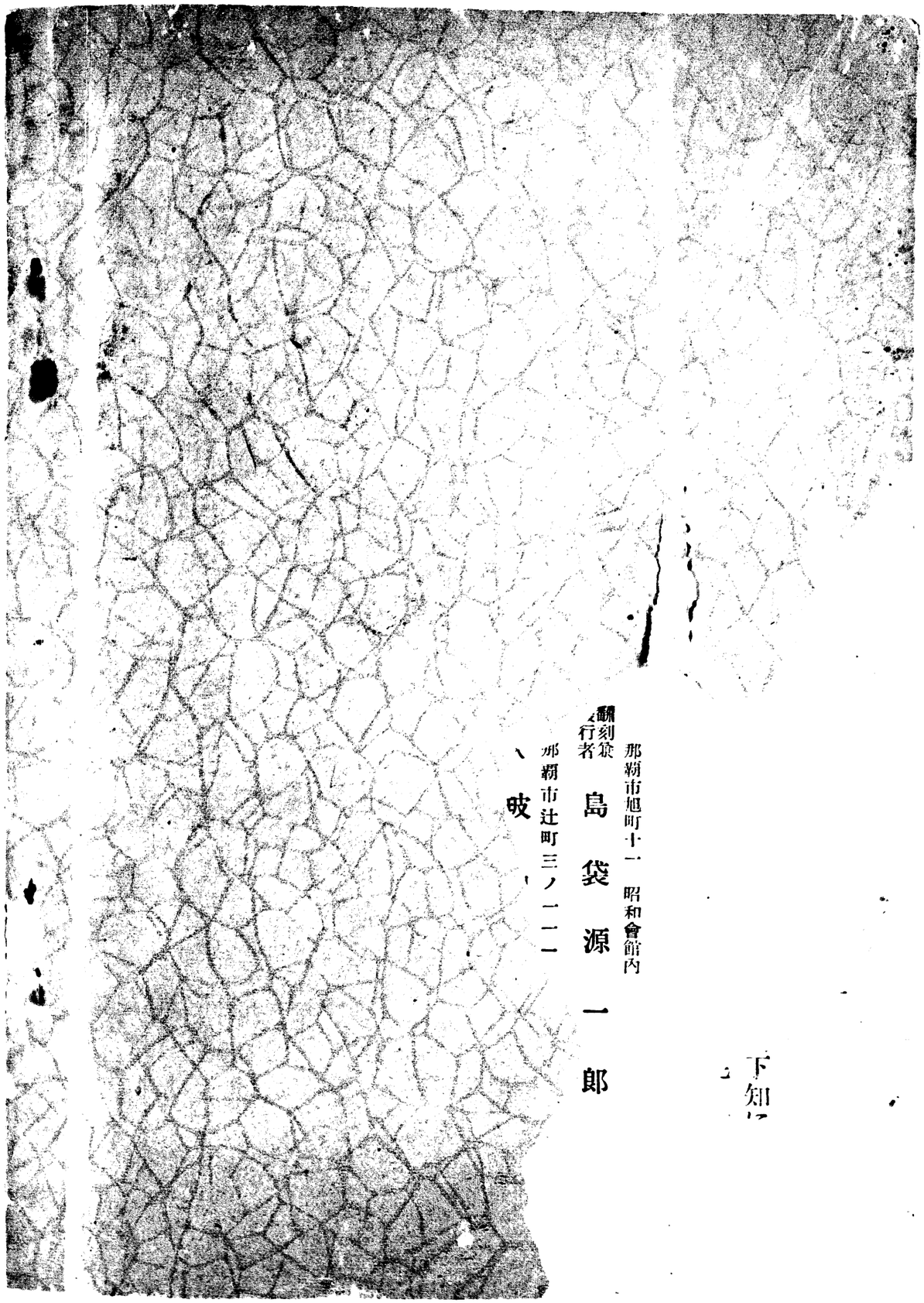
Digital image © 2008 University of the Ryukyus Library

昭和十年十二月五日　印刷
昭和十年十二月十日　發行

那覇市旭町十一　昭和會館內
飜刻兼發行者　島袋源一郎
那覇市辻町三ノ一一一
印刷人　玻名城政富
那覇市辻町三ノ一一一
印刷所　玻名城印刷所

沖縄縣那覇市旭町十一番地
發行所　沖縄鄉土協會

Digital image © 2008 University of the Ryukyus Library



那覇市旭町十一　昭和會館内
翻刻兼發行者　島袋源一郎
那覇市辻町三ノ一二一
岐

Digital image © 2008 University of the Ryukyus Library